

《 国内貨物計量システムの特徴 》

約 1 万台のコンテナに、IC タグを取り付け。

2.45GHz 帯パッシブ型 IC タグ^(注1)を採用。

記入、手入力など人が介するプロセスの削減。

従来から、基幹空港で使用していたセミパッシブ型の IC タグ^(注2)に比べ、1 枚当りの購入コスト、バッテリー交換等維持コストを大幅に低減。

注 1 :パッシブ型 IC タグ

IC タグとは、データの読み取り(書き換え)が可能な IC を埋め込み、電波を使って情報の読み書きを行うタグ(荷札)。パッシブ型 IC タグは電池などの電力源を持たず、リーダーライターからの電波により電気を発生させ通信を行う IC タグを指します。

注 2 :セミパッシブ型の IC タグ

セミパッシブ型の IC タグは電池を内蔵し、リーダーライターからの電波を受信すると自ら保持している電力を用いて電波を発信する IC タグを指します。

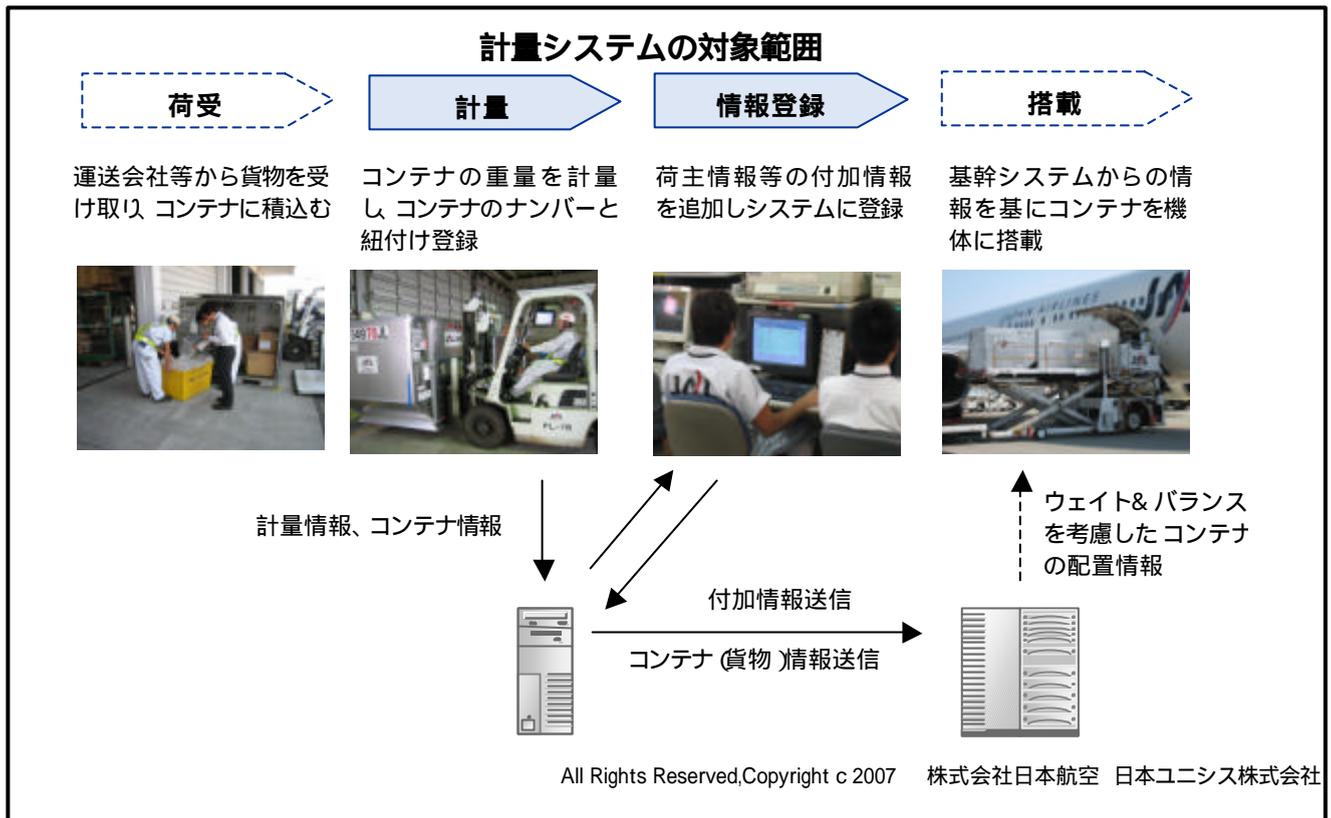
《 新計量システムを活用した業務の流れ 》

フォークリフトのドライバーが、コンテナに取り付けられている IC タグの情報をハンディターミナルで読み取る。

フォークリフト上で計量したコンテナの重量情報とコンテナ番号の情報を専用端末上で紐付け、関連する付加情報を入力し、ドライバーがサーバーへデータを送信する。

サーバーに蓄積された情報を JAL 事務所内で確認し、必要な情報を追加登録した上で JAL 基幹システムに転送する。

JAL 基幹システムにて航空機に搭載する際の重量バランスを計算し、航空機内でのコンテナの配置を決定する。決められた配置に基づき、機体にコンテナを搭載する。



* 会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。